

平成26年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた、心身ともに健全な、国家社会の有為な人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p style="text-align: center;">平成26年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○学力の向上では、分かる授業を推進し、内容の充実を図ることにより、意欲的に学習に取り組む生徒が増加している。授業時間の確保には授業の振替やもらい授業が徹底してきたため自習の時間が前年度に比べて8%減少した。 ○心の教育に関しては、1年生生徒全員がボランティア活動を行い、地域に貢献する心や自己効力感を育むことができた。 ○広報活動については、ホームページの刷新を図り、学校や商業教育等の情報を提供している。また、学校説明会や中学生の体験入学及び出前授業等を実施することで商業教育のPRを行っている。さらに鬼怒商だよりを作成し、近隣の中学校や学習塾、卒業生がいる企業などに配布した。 【次年度への課題】 ○学習意欲の低い生徒への組織的・計画的な指導方法の探求、および、教師の指導力向上の研修の充実等が挙げられる。 ○ボランティア体験を活かして、地域の他のボランティア活動にも自主的に参加するような生徒を育成していくことである。 ○広報活動のさらなる充実を目指して取り組んでいきたい。</p> <p>進路指導部 ○進路指導については、各学年とも実施した行事が学年の生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体験的な内容であったことと、進路に関する情報を生徒に適切に得させることのできる内容で大変効果的であった。進路決定率は就職で94.5%で、進学は100%である。(H27.1.23現在。) ○インターンシップについては、今年度29事業所の実習先に於いて83名の生徒が体験した。 【次年度への課題】 ○進路実現100%を目指すために日々の学習活動の工夫とコミュニケーションスキルとビジネススキルのさらなる向上が必要とされる。</p> <p>生徒指導部 ○問題行動の未然防止のための取組として講話・集会・学校生活アンケートを実施した。また、服装指導や遅刻指導を全職員で取り組んだ。 【次年度への課題】 ○より組織的な生徒指導を行うために生徒指導対応マニュアルを活用し、問題行動の未然防止に努める。また、服装指導や遅刻指導での職員間のさらなる共通理解を図り取り組んでいきたい。</p> <p>特活部 ○学校行事においては、生徒会役員とのコミュニケーションを図ることで、円滑な運営が実現できた。商業教育を生かし、クラス主体の文化祭を実施できた。 【次年度への課題】 ○生徒会活動の定例化や各運動部の目標設定について取り組んでいきたい。</p> <p>環境整備部 ○ワックスがけ・モップ交換・全校清掃等、計画通りに行うことができた。 【次年度への課題】 ○自ら率先して清掃を行い、環境等に対する意識を向上させる指導方法を工夫したい。</p> <p>図書部 ○古書の廃棄ができた。生徒による図書だよりの発行ができた。新書購入のPRがうまくできた。 【次年度への課題】 ○図書当番の役割の徹底を図る。また、図書だよりの発行や新書のPR活動をさらに充実させたい。</p> <p>渉外部 ○PTA総会の出席率が47%となり、研修旅行や支部研修会の出席率も増加傾向にある。スクールバスの料金は値上げせず、据え置きのまま乗車できるようにできた。 【次年度の課題】 ○PTA活動の更なる活性化を目標とし、会員の参加者をさらに増やす工夫をしたい。</p> <p>保健厚生部 ○保健室の運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等十分に対応することができた。内科・歯科の検診は全生徒が効率的に実施できた。また、性教育講話も予定通り実施することができた。火災だけでなく地震を想定した避難訓練を行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行い災害に備える防災体制ができた。 【次年度の課題】 ○さらに学校の環境衛生および生徒の健康管理の向上に努めることである。</p> <p>情報管理部 ○情報資産のセキュリティについての手順書を作成し、校内にある情報資産の洗い出しを行った。また、ホームページのリニューアルを行うことができた。 【次年度の課題】 ○情報の保護に関してさらに注意を喚起し、セキュリティ確保に努めたい。</p>	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業を推進し、学力の向上を図る。 ・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。 ・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。 ・授業観察等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。 ・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 	B B B C B
	安定的な定員の確保に向けて、商業教育の活性化と広報活動に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得のための課外授業の実施に努める。 ・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。 ・地域と連携した商業教育の推進を行う。 ・効果的な体験入学を実施する。 ・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。 	B A A A B
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。 ・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。 ・教職員や保護者による求人確保及び開拓を推進する。 ・就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 	B B A B B A
	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に努める。 ・整容指導の徹底を図る。 ・問題行動や事故の未然防止に努める。 ・特別指導の充実改善を図る。 	B C B B
	特別教育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会及びHR活動の活性化に努める。 ・部活動の活性化に努める。 ・文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 ・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。 	B B B B
	安心・安全な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・自主的に安全を守る能力を養う。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 	B B B
	コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 	B
	及びビジネスマナーの修得に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 ・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・ビジネスマナーの徹底 	B B B

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	ノートや課題集等を学期毎に（年間3回以上）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。	A	B ○定期試験対策の時間を確保するためにも、生徒の実態に合わせて進捗計画を見直すなどし、対策を充実させたい。 ○俳句・短歌については、各学年ともに複数名入選することができた。 ○教員からの働きかけはできたと思うが、生徒の能力に反映させたかどうかは、もう少し改善の余地がある。特に、家庭学習の習慣を身に付けさせる方法は、今後も検討する必要があると思われる。 ○漢字検定試験を2回実施することができた。1・3学年は希望者、2学年においては5組が中心となって受験し、合格率を伸ばした。次年度は3学年においては1～4組の、他学年においては希望者の3級合格を目指したい。（80%） ○各学年ごとにスピーチを実施した。さらに工夫をし相互作用的なコミュニケーションが図れるようなスキルを身に付けさせたい。 ○外国人特例入学者の指導については、学年と連携して引き続きお手伝いしていきたい。
		定期試験対策の時間を設け、理解度の低い生徒をフォローし、学習意欲を引き出す。	C	
	場に応じた適切な表現力を身に付ける。	俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、相手に伝える表現力を育てる。	B	
	家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B	
社会	授業に意欲的・集中的に取り組む姿勢を促す。	発問を増やすことで、生徒の興味・関心を引きつける授業展開を心がける。	B	B ○新聞等さまざまな教材を活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開に努めた。 ○授業内容の確認プリントやノートの点検などをこまめに行った。 ○対話型の授業展開の工夫をはかり、多くの生徒に発言の機会を与えることを次年度に向けた課題としたい。
		視聴覚教材や新聞等の資料を効果的に活用する。	B	
		生徒が授業に参加するよう対話型の授業展開を心がける。毎授業ごとに、クラスの多くの生徒が発表できるよう発問や展開を工夫する。	B	
	教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの点検等きめ細かな指導を行い、理解度の低い生徒に対するフォローを実施する。ノートの点検は、年3回以上行う。	A	
数学	教科書の内容の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの事例を通し、体験的に理解できるように工夫する。	B	B ○演習プリント等で、問題演習を多くすることで体験的に理解できるようにできた。 ○年間を通して、ノート点検等で理解不足の生徒の指導を行うことが出来た。 ○定期テストでのクラス平均が5割程度だったので、7割以上の目標を次年度の課題としたい。引き続き、基礎的な計算能力の向上に努めたい。
		課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	B	
		各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。	B	
理科	基礎的な学習の向上を図る。	商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。	B	B ○課外の希望者はなかったため、実施することはできなかった。 ○実験等は予定通り、実施することができた。来年度も実験等を通じて関心を授業に対し深めたい。 ○最新の科学情報（DVD等）を提供し、科学への関心を深めさせたい。
	科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。	A	
	物理実験室・化学実験室利用を高める。	教室内の授業以外に実験室・屋外を利用して実験・実習を行う。	B	
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体力テストA及びBの割合を50%にする。	A	C ○体力テストのA及びBの割合は51.9%と目標を達成することができた。3年生を中心に意欲的に取り組むことができたことが大きな要因である。 ○卒業課題への取り組みは、積極的な生徒とそうでない生徒との差があり、目標値まで達成できなかった。 ○今年度の体育的行事としてクラスマッチがあったが、生徒主体で活動することができた。 ○実技研修会の実施は、担当者の都合等もありなかなか実施できなかった。 ○保健の授業で、インフルエンザや土砂災害、異物混入問題等の最新ニュースを授業で取り上げながら展開することができた。 【次年度への課題】 今年度達成できた目標を引き続き達成できるよう継続して指導していくとともに、卒業課題への取り組みをもっと積極的にやっていく。
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率95%を目指す。	C	
	体育的学校の行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	クラスマッチ等の学校の行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。	A	
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	C	
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B	
英語	基礎学力の向上に努める。	各学年、年3回スプリング・コンテストを実施し、語彙力強化を目指す。	C	B ○スプリングコンテストを実施し、語彙力の強化に努めたが、年1度しか実施できない学年があった。 ○成績不振者については、対策課外を実施し、補講を行った。 ○全商英検については、夏期講習・放課後講習などにより早くから対策課外を実施し、例年以上の成果を上げることができた。例年の3級合格者は60数パーセントであるが、今年度は70パーセント以上の合格率である。また1級の合格者も年間6名であり、近來にない成果を上げることができた。 ○ALTのペース校として週2回6時間ALTを活用し、コミュニケーション能力の育成に努めた。 【次年度への課題】 ○英語検定試験で2級・1級の合格率をさらにアップさせること。 ○新教育過程に対応した英語教員の指導法・評価法を確立させること。 ○ITC機材を活用した授業展開。生徒のコミュニケーション能力のさらなる育成。など
		上級学校への進学を念頭に、進学課外を実施する。	B	
		成績不振者に対して、課外を実施し、学力の向上を図る。	B	
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。	A	
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。	B	
	パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。	A		
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。	B	B ○実習を通して、食生活の充実向上を図るための基礎技術を身につけさせることができた。 ○こまめなプリント点検を通して、実習の振り返りや、知識の定着を図ることができた。 ○被服製作を通して、完成の喜びや、達成感を持たせることができた。 ○夏期休業中にホームプロジェクトを実施させることは出来たが、家庭生活において発展させることができなかった。 【次年度への課題】 ○実験・実習を含め、生徒の興味関心を高めるような教材を工夫する。
		小テスト・実技テスト・プリント点検等を通して、基礎的な知識と技術を定着させる。	B	
	生徒の実態に応じた個別指導を充実させる。	実習授業において個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。	B	
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、生活を向上させる。	C	
商業	学力の向上を図る。	学力向上のための検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。	B	B ○まだ、現時点で実施していない検定試験もある。達成できなかった検定試験もあるが、全体的には60%を達成することができた。 ○広報活動については、出前授業は昨年より4校多い10校の近隣中学校で実施することができた。体験入学には24中学329名の参加があった。また、夏季休業中に「ハロー会計in筑西」を実施、41名の中学生が参加するなど商業教育の推進と広報に努めた。 【次年度への課題】 ○3年間で目指す資格取得を明確にし、商業科全体で協力し、指導する。
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進を図るため、出前授業を実施する。	A	
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。	B	
		商業教育の理解を深めるため、効果的な体験入学を実施する。	A	
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	B	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教務	学力の向上に努める。	わかる授業の展開と学習意欲の喚起をする。 指導力向上のために授業観察日を設け、教師のスキルアップを図る。	B C	B ○各教科とも教材等の工夫をし、わかる授業の展開を心掛けていた。成績上位者(評定4.0以上)の生徒が増加している。 ○授業公開日が1学期しか設定ができなかった。 ○月曜日の授業が少なくなることへの対応として火曜日との振替を行ったが、不十分であった。また、自習時間は週2時間以内であり、振替等の徹底が図れた。 ○生徒に何を学ばせるかを考慮し、教育課程編成を行った。 ○成績に関する内規の改正を検討中である。 ○現在、転退学者は昨年度より減少している。 【次年度への課題】 ○わかる授業への更なる工夫と指導力向上を目指し、授業公開等の機会を増やし、研修の充実を図る。 ○代休等を月曜日以外に設定し、授業時間の公平性を図る。 ○生徒の実情に合う教育課程の編成を行う。 ○内規の完成を目指す。
	授業時間の確保に努める。	学校行事による、曜日・時間のかたよりを少なくし、曜日の振替も行う。 年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。	C B	
	教育課程の編成に努める。	本校の目指す学校像や生徒のための教育課程を編成する。	B	
	内規の改正をする。	本校の現状をふまえ、内規の見直しを行う。	B	
	学業不振による転退学者の減少を目指す。	成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。	B	
	心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。	結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。	B	
	ボランティア活動を全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。	各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道德の授業との連携を図る。	B	
	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	B	
	服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。	C	
	生徒指導	遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。	
交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ		校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。	B	
問題行動を未然に防ぐ		全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。	B	
教育相談活動の充実		教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。	B	
生徒会・HR活動の活性化につとめる。		生徒会役員会の定例化・生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	B	
部活動の活性化に努める。		各部活動の目標を設定させ、意欲的な取り組みを促す。 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	C A	
文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。	特活部会・生徒会等の話し合いを密にし、学校行事の実施に向けての準備・取り組みを早期に図る。	B		
進路指導	進路保障と生徒個人に対する進路指導を展開する。	生徒の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を発達段階に応じて適切に実施する。 進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。	B A	B ○各学年とも実施した進路ガイダンスや行事等が生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体系的な内容であったことと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。 ○進路決定率は全体では96.9%で進学が100%、就職が94.5%である。(H27.1.23現在)なお就職希望者への指導は現在も引き続き行っている。 【次年度への課題】 ○進路実現100%(進路保障)を目指した日々の学習活動の工夫と生徒個人のコミュニケーションスキルとビジネススキルのさらなる向上が必要とされる。さらにコミュニケーションスキルの劣っている生徒への指導を工夫していかなければならない。 ○インターンシップについては、今年度29箇所の実習先に於いて就職希望者の83名が体験することができ、生徒にとって貴重な経験となった。次年度以降もこの形で進めたい。
	積極的に進路ガイダンスを行う。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。	B	
	求人確保及び開拓を行う。	教職員による求人確保及び開拓を推進する。	B	
	インターンシップをとらして職業意識の啓発を図る。	就業体験(インターンシップ)をとらして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。	A	
環境整備	自ら率先して清掃を行う態度を養う。	教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。 清掃監督を毎日きちんと行う。 学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。	A A B	B ○年間計画通り、ワックスがけ、モップ交換を実施した。 ○毎日の清掃及び監督を実施した。 ○1学期は、実施したが、2・3学期は環境整備の生徒を召集しなかった。 ○年2回の校外清掃(空き缶、ごみ拾い)を環境整備、部活動有志で実施した。 ○ゴミ回収業者から2度程クレーム(分別、ゴミ袋の縛り方)があった。 【次年度への課題】 ○自ら率先して清掃を行い、またゴミや環境に対する意識を向上させる指導方法を工夫したい。
	環境問題等に関する意識の向上を図る。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行う。 ゴミの分別をきちんとさせる。	B C	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	B	B ○保健室の運営は来室生徒の状態を把握し、処置等十分な対応ができた。 ○内科・歯科検診も予定どおり、効果的に実施でき、生徒の健康状況を把握できた。 ○性教育講座も予定どおり実施でき、所定の効果を上げることができた。 ○火災だけでなく地震を想定した避難訓練を行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行い、学校安全・防災に備える体制ができた。
			諸検診の効果的な実施に努める。	A	
			専門家による性教育を実施する。	B	
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。	B	
		学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B	
		水質検査および室内環境検査等を実施する。	B		
	図書	情報センターとしての図書室環境を整備する。	わかりやすい蔵書の配置・整備に務め図書室を利用しやすい環境に整備する。	A	A ○全体的に目標を上回って達成できたように思われる。しかし、図書委員の当番としての役割について、もう少し、徹底させなければならぬと感じている。 ○具体的には、第1点として、利用がない古書を廃棄できたことである。生徒と共に、数か月選抜し整理した。今後は、生徒のニーズに沿った新書準備が可能となった。 ○第2点目として、生徒自身による図書日より発行である。昨年度まで図書部職員による発行であった。生徒目線の図書だよりにしたいので生徒の原稿としました。引き続き今後も生徒による発行をしたいと思います。 ○第3点目としては、新書購入の際には、カラーコピーによりPRすることができました。 以上の点について、来年度はさらに深めたいと考えている。
			原則として長期休業中を除き開館し、生徒の図書室利用に対応する。	B	
		読書指導と読書の推進を図る。	1年生全員クラス毎に図書室利用のオリエンテーションを実施する。	A	
			新刊本をカラーコピーし、生徒昇降口に掲示する。	A	
		職員に対する購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時生徒・職員の購入希望を受け付ける。	A		
	生徒・職員の希望図書を購入し、生徒発行の「図書室だより」で新着図書案内を行う。	A			
渉外	PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が40%以上になるよう工夫をする。	B	B ○PTA総会の出席率は過去最高の47%となった。本校初の女性PTA会長になった効果だったのかもかもしれない。 ○研修視察旅行は世界遺産となった富岡製糸場を見学し、好評だった。来年度も本部役員を中心に各会合への参加を積極的に働きかけ、PTA会員の参加者をさらに増加させたい。 ○鬼月同窓会の本部役員を副会長1名、常任理事3名増員することができた。今年度から、理事会の出席欠席の返事を本校のホームページに連絡できるようになった。今後とも役員会、理事会の出席者を増やしたい。 ○スクールバスの運賃は消費税が4月から8%にアップしたが、据置きままで着着がついた。今後、10%にアップした場合の対応を検討しなければならない。また、停留場の地主からクレームがあったが、業者と協力して解決できた。今後ともスクールバス運行委員会において問題点を改善していく。	
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。	B		
		会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。	B		
		PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。	B		
	同窓会の組織強化に努める。	副会長、常任理事を増員する。	B		
情報管理	50号バイパスの本校に降りる交差点「鬼怒川西」を「鬼怒商前」に変更したい。	PTA・同窓会合同で検討していく。	D	B ○情報資産のセキュリティについての手順書を作成し、校内にある情報資産の洗い出しを行った。 ○ホームページのリニューアルを行うことができ、情報発信することができた。 ○次年度への課題として情報の保護に関してさらに注意を促し、セキュリティ確保に努めたい。	
	スクールバスの円滑な運行をはかる。また、新たなコース導入や消費税への対応を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。	B		
	教育活動の公表に努める。	生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を随時更新し、情報を発信する。	B		
	情報の保護・管理に努める。	公務上知り得た学校や生徒の情報の保護に努めるよう、手引きを作成する	B		
	危機の更新に伴うシステムの整備に努める。	危機の整備に伴うシステムの変更の際に、異常が出ないよう努める	B		
学 年	一 学 年	基本的な生活習慣の確立に努める	欠席・遅刻・早退ゼロを目指し、家庭との連携を密にする。	C	C ○担任と保護者が連絡を密にすることで、欠席・遅刻を常態化させない努力をしたが、ゼロにするには至らなかった。皆勤者65名(32%) ○各種ボランティアには、担当教員を通してほぼ計画通り実施することができた。 ○挨拶の遂行は、教員からだけでなく生徒自ら挨拶ができるなど継続ができた。 ○チャイムが鳴ってから準備を始めるなど、授業に臨む意識が低い。次年度は、注意されなくても準備して開始を待つ指導を継続していく。 ○進路体験ツアーや進路ガイダンス等を実施することはできたが、目標とした面談回数を実施するには至らなかったからか、まだ進路が定まらない生徒が多数みられる。
		情操教育の推進に努める	心の教育事業に全員が参加し、心豊かな生徒を育てる。	B	
		コミュニケーション能力の育成に努める	挨拶の励行を推進し、生徒への声掛けを積極的に行う。	B	
		基礎学力の向上と授業の質の向上に努める	授業開始のチャイムを座席で聞くよう心掛けさせる。	C	
		進路意識の高揚に努める	ガイダンスおよび面談等を5回以上実施し、早期の意識付けを行う。	C	
	二 学 年	進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める	インターンシップやオープンキャンパスへの主体的な参加を促す。面接指導を年間5回以上実施する。集会や授業にスピーチを取り入れる。	A	B ○夏休みのオープンキャンパスとインターンシップに全員参加し、レポートを提出できた。生徒のインターンシップの取り組み方から求人頂いた企業があった。進路ガイダンスの定期的な実施や国語・英語でのスピーチを実施し、生徒1人1人が少しずつ人前で話す自信がついてきた。 ○挨拶をきちんとする生徒が多い。授業態度も落ち着いており、携帯電話の提出は定着している。 ○検定の合格率は、情報ビジネス科約90%、商業科70%と共に目標を大きく上回る好成績を出すことができた。来年も継続的に学年全体で指導に当たりたい。 ○部活動加入率を維持することができた。生徒会活動にも積極的に参加し、全生徒会役員が2年生である。朝の挨拶運動にバスケットボール部と2年生の生徒会及び有志が参加している。 ○生徒指導の件数は減り、全体的に落ち着いた生活態度になった。また、家庭との連携を密にし、学校・家庭間の信頼関係は良好で、保護者も教育活動に協力的である。 【次年度への課題】 ○進路希望の確定と、実現に向けて、早い段階からの課外や模擬試験等の対策をたてる。 ○進路決定後も、社会人として要求されるスキルやマナーを身に付けさせる指導を行う。 ○落ち着いた生活態度で最高学年として、模範となるよう自覚を促す。
		授業環境の質の向上に努める	チャイムtoチャイム、きちんとした挨拶や身だしなみ、携帯電話の提出、授業中の私語をゼロにする指導の徹底。全員進級を目指す。	B	
		情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる	情報ビジネス科については、各種検定試験1級合格率平均80%を実現する。商業科についても、50%を実現。	A	
		部活動での主体的活動を担う。	部活動加入率40%を維持し、学校の活性化にも貢献する。	B	
		モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。	鬼怒商生である事に誇りを持たせ節度ある行動を取らせる。事故や問題行動等の早期発見・早期解決を心がけ、学校と家庭の連携を密にする。学年集会等や設け事故や問題行動等の未然防止に努める。特別指導を年間一ケタにする。	B	
三 学 年	社会人を意識したコミュニケーション能力の向上をはかる	生徒との会話を密にする中で指導していく。特に商業科目(総合実践)においては社会人としてのマナー教育を実践させる。	B	B ○進路決定後、服装や言葉遣いなどに指導の必要性を感じた。 ○面接の指導については生徒の計画的・主体的な行動を促す必要があった。 ○保護者の協力も得たが、進路変更者が出てしまった。 ○年に3回のガイダンスを実施することができ、将来の自分を考えさせることができた。進路指導部をはじめ、諸先生方のおかげで、就職者の40%が事務職に採用が決まり、四大進学者も日東駒専レベルの学校へ進学することができた。 ・情報ビジネス科において、全商1級3種目合格者を80%輩出することができたが、より高度な資格取得については不十分であった。	
	挨拶や正しい言葉遣いを身につけさせる	教員からも積極的に生徒に挨拶をし、会話の中で言葉遣いを指導していく。面接指導を年間5回以上実施する。	B		
	全員卒業を実現させる	進路変更者を出さない。保護者との連絡を密にし、連携をはかる。	B		
	進路未決定者ゼロを実現させる	将来の自分を本気で考えさせることで、フリーターを出さない。進路ガイダンスを3回実施。	B		
	情報ビジネス科の生徒に高度資格を取得させる	全商1級3種目合格者を80% ITパスポート(情報処理技術者試験) 5名, 日商簿記検定試験2級 5名, 3級 30名	B		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分